

オルガン披露を含む演奏会は、ベートーヴェン：《エグモント》序曲にはじまり《英雄》交響曲第1楽章でおわるプログラム。その間に奏された音楽のうち、オルガン作品はバッハとラインベルガーの2曲で、中田章が演奏した。来日中のチェリスト、ボグミル・シコラも演奏に加わった。

## パイプオルガン 南葵楽堂に響いて100年

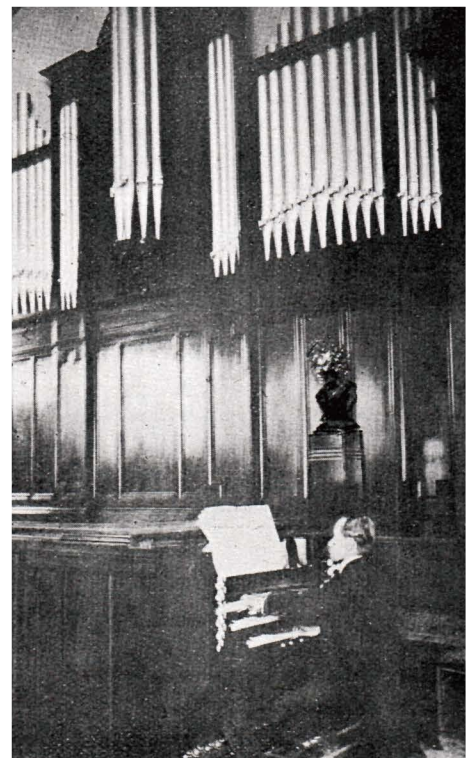
1920（大正9）年11月21・22日の両日、パイプオルガン備付工事竣成「特別音楽演奏」が催された。日本初の本格的なオルガンが鳴り響いた日であった。当初からオルガン設置をふまえて設計された南葵楽堂に、英国から楽器が到着したのは1920年春。今から100年前、わが国にオルガンがどのように姿を現したのか、当時の資料を繙いてみよう。



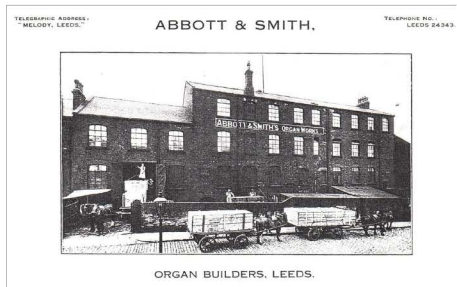
オルガン披露演奏会当日の南葵楽堂



シコラ夫妻と徳川夫妻



オルガンを演奏する中田章



アボット・アンド・スミス社。  
英国リーズのオルガンメーカー、創業1869年。  
南葵楽堂の大風琴もここで製造された。

※オルガンの図版は右下を除き「南葵文庫附属御大礼奉祝記念館大風琴」（国立国会図書館所蔵）による。

頼貞が恩師ネイラーの紹介で注文したオルガンの組み立ては1920年7月から始まる。招聘した技師ブリッチャードの監修のもと、西川風琴製造所の斎藤技師、本郷中央教会でオルガン演奏をしていたガントレットらの協力のもと、わが国初の本格的パイプオルガン大風琴は完成する。

# 南葵楽堂の大風琴

パイプオルガン



横浜港から届いたばかりの積み荷



資材の一部（音響盤、木製管、金属管、送風管）



資材の一部（金属管、送風管）



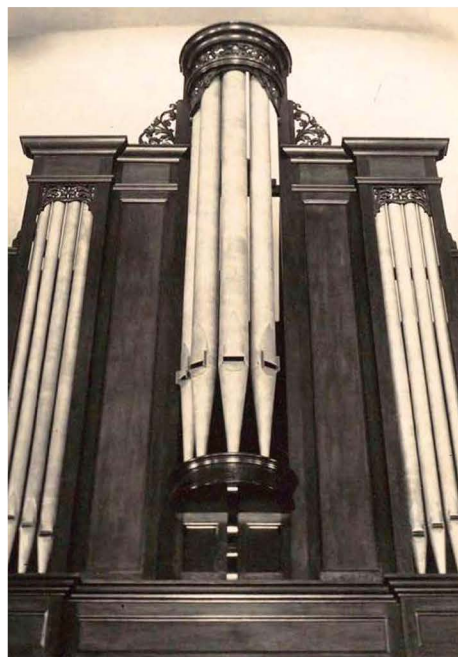
組み立て中のコンソール（演奏台）と鍵盤



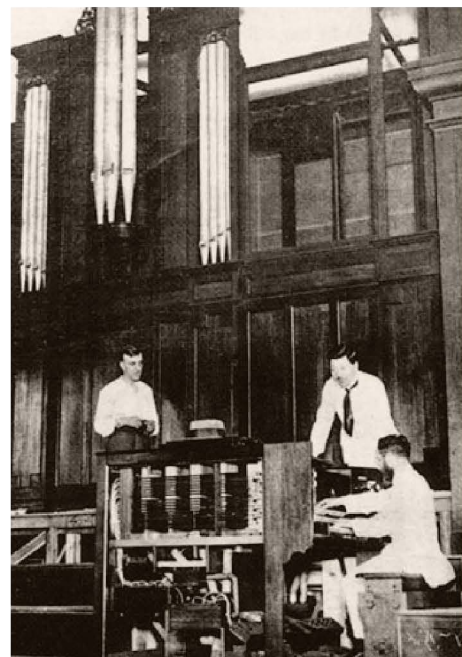
コンソールの背面



配管前の外枠工事



パイプを取り付けた中央塔



試奏するガントレットを見守るブリッチャードと頼貞

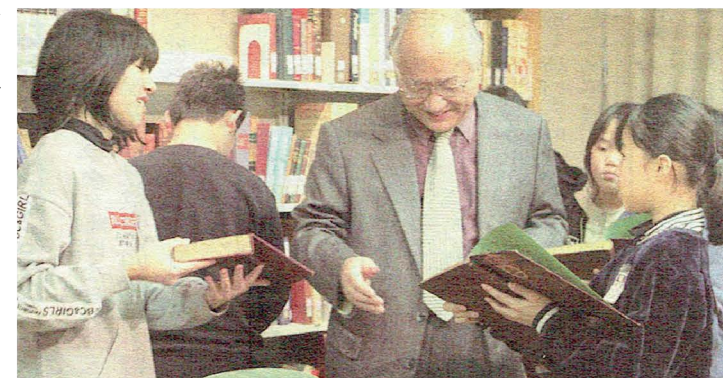


定期講座【最終回】

# 南葵音楽文庫のこれから 魅力とポテンシャルを語る

2020年2月23日 和歌山県立図書館 講義研修室

南葵音楽文庫閲覧室で  
徳川さんのサインを  
見つける地元の小学生  
（「ニュース和歌山」  
2020年2月15日より）



パネリスト：近藤秀樹（司会）、佐々木勉、美山良夫、林淑姫

定期講座の最終回では、3年間にわたり和歌山で調査研究やレクチャーに携わってきた各パネリストがそれぞれの立場で、このコレクションの今後へ向けての思いや課題、期待を語りました。

## ① 目録の必要性

どのような資料があるのか、全体像が分からないので、収蔵資料を一覧的に示す総合的な目録が必要。

**林** かつて南葵図書館時代には楽譜目録、音楽書目録が作成された。駒場時代にもいくつか作られたが、楽譜は除かれていた。楽譜を含む総合的な蔵書目録の必要性を痛感する。

**美山** 楽譜には、検索だけではわからない要素が多々あり、手にとって繰ることが望まれる。

**佐々木** 贅沢いえば開架式。むろん貴重な蒐集は無理で、目録の必要性は残る。

**林** 使用目的を広くとった総合的な目録のほか、特色あるコレクションごとの目録も望ましい。目録づくりは面白い。

## ② エフェメラ、関連資料、新発見資料等も大切に保管を

**美山** 葉かわりに挟んでおいた紙片から、文庫形成の糸をたどることもできる。図書館の目録データでは表示されないエフェメラ類も保存して参照できるように。

**佐々木** 1923（大正12）6月10日の南葵文庫春期音楽会入場券（試し刷り？）といった例も発見した。

**林** これらは今まで「雑資料」とよばれてきた。最近では重要性が認識されてきたが、エフェメラといってもいろいろなカテゴリーがあり、南葵はそれらの宝庫だ。資料

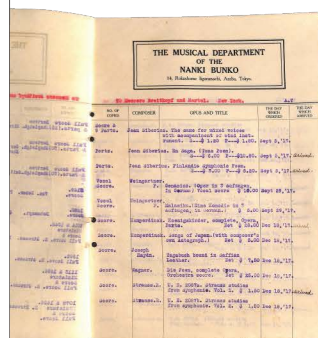
の海外発注書などの内部資料、閲覧者紹介状、頼貞の住まいヴィラ・エリザで催された音楽会のプログラムや国際会議報告書など関係資(史)料が見られ、南葵にとってばかりでなく、図書館史、音楽史にとっても当時を語る重要な証言資料である。適切な保存方法を検討したい。

■エフェメラ<ephemera> 蜻蛉、その日限りのはかない命、の意。

広義では…一時的な筆記、印刷物および印刷物に筆記したもの。長い保存は意図していないが、保存が求められる場合もある。

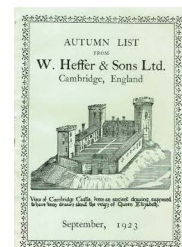
狭義では… 図書の形態をとってない（主に一枚もの）印刷物。（保存、閲覧を意図した図書とはことなり）役割をおえたら捨てられることが暗黙の前提。

例) チラシ、チケット、演奏会プログラム、ポスター、出版案内広告。



南葵文庫音楽部門の海外発注控え

### エフェメラの例



葉がわりに挟まれていた  
ケンブリッジの書店からの案内

## ③ 人から人へ：南葵から拡がる世界

**美山** 和歌山の高校生、小学生に話す機会があり、ともに素晴らしい体験だった。若い人向け、年代別のプログラムとそのため便利な素材づくりを提案したい。「特色ある教育事例」として、若い人が和歌山に誇りをもつことに繋がればよい。

**近藤** 南葵音楽文庫閲覧室に並んでいる本、楽譜には頼貞がヨーロッパの音楽家から贈られた署名付きの資料もある。

**林** ももとは頼倫、頼貞自身の蔵書、作曲者・関係者から献呈された資料があり、署名や献辞が記されている。資料の目録データは献辞なども含むものでありたい。

## ④ 文庫を「音」にする：文庫の演奏利用

**近藤** 南葵には珍しい、貴重な作品の楽譜もあり、音源

がみつからない場合もある。関係者の協力をえて演奏録音機会をもてたが、さらに続けられればと願う。

**美山** 費用のこともあり、AI活用で誰でも軽便に音にできるシステムがあれば便利だ。

## ⑤ 和歌山との関係

**林** 県立図書館には、頼倫頼貞と県立図書館との関係をしめす資料、たとえば1938年に竣工した県立図書館（第2代館）のための後援会名簿、1908年の南葵文庫公開時に配布された『木片勸進』、頼貞の弟治の一周忌に刊行された追悼文集『葵廼零』などは、もともと県立図書館蔵書にある。南葵音楽図書館退職後に県立図書館に勤務した喜多村進が寄贈した関係書がある。図書館では郷土資料として整理されているが、「南葵資料」として纏めてもいいだろう。また、南葵音楽文庫が和歌山に来たのを機縁に、明治期以降の和歌山における近代音楽史「和歌山と音楽」への取り組みを皆様に提案したい。

**美山** 南葵音楽文庫それ自体は郷土資料ではないし、今後も郷土資料にはならない。しかしこの文庫を利用、活用して生まれた体験の記憶、教育・芸術活動等は、和歌山のアセットであり、郷土資料として蓄積、公共化しなくてはならない。和歌山にとって南葵音楽文庫は、またとない郷土資料の創成装置だ。装置は、公開し、運転して郷土をつくるため、きちんと駆動させつづけてはならない。

### Museum Information

## 企画展 喜多村進と徳川頼貞 —南葵音楽文庫をめぐるひとびと—

2020年8月29日(土) ~ 10月4日(日)

和歌山県立博物館



晩年の喜多村進

南葵音楽文庫の司書であった喜多村進とつながりのあった徳川頼貞・島崎藤村・田山花袋らの資料をはじめとして、東京と和歌山における喜多村進の活動を、書簡や文芸作品などの資料で紹介します。



photo：佐本守



[保存版]

# 南葵音楽文庫ミニレクチャー【一覧】

2017年12月～2020年3月

<b>担当講師 美山良夫</b>		
南葵音楽文庫を知る：基本の基本		2017.12.09
徳川頼貞 学生時代の本と楽譜		2017.12.23
紀州徳川家と音楽 吉宗から明治まで		2018.01.06
大きな楽譜 美しい楽譜 丈夫な楽譜		2018.04.21
南葵に残る「第九」資料さまざま		2018.05.19
楽譜が語り出す「物語」ドイツからアメリカ・日本へ		2018.06.23
南葵音楽文庫：2つの世界大戦とその狭間で		2018.08.18
チェロの名手ホルマンの来日		2018.09.15
愛書家憧れのインキュナブラ（揺籃期活版印刷本）		2018.10.12
南葵音楽文庫を知る－基本の基本－1. 頼貞の『思い』		2018.12.07
同2. デジタル		2019.01.11
同3. 数奇な運命		2019.02.08
同4. 魅力の核心「手沢本」		2019.02.23
同5. 「書票」とは		2019.05.05
同6. 書物の装幀		2019.06.07
博物館「南葵音楽文庫の至宝」展 見方、読み方、楽しみ方		2019.08.09
同7. オークション		2019.08.24
同8. 楽譜印刷万華鏡		2019.09.28
同9. 失われた貴重書		2019.10.19
同10. 演奏会プログラム		2019.12.21
船、宿、列車＝旅する頼貞が求めたもの		2020.02.02
「赤貧、洗うがごとし」－池永孟と徳川頼貞	(*)	2020.03.01
南葵音楽文庫に宿る「魂」	(*)	2020.03.28
<b>担当講師 林淑姫</b>		
徳川頼貞と明治のうた		2018.01.13
ケーベル先生と徳川頼貞		2018.02.10
ロンドン・音楽・1914年		2018.03.03
大田黒元雄と徳川頼貞		2018.03.10
明治の来日オペラ団と徳川頼貞		2018.04.07
明治のオーケストラと徳川頼貞		2018.05.05
南葵音楽文庫と日本人作曲家の楽譜		2018.06.09
父・徳川頼貞のこと～頼貞の回想から		2018.09.01
頼貞の恩師シリアル・ルーサム		2018.09.22
南葵楽堂開館100年記念！		2018.10.27
徳川頼貞と武井守成のプレクトラム合奏団		2018.11.17
徳川頼貞と本居長世		2018.12.22
頼貞の恩師チャールズ・ウィリアーズ・スタンフォード		2019.01.26
徳川頼貞の恩師チャールズ・ウッド		2019.03.08
徳川頼貞と兼常清佐		2019.03.30
本居長世 人と作品		2019.04.20
指揮者ヘンリー・ウッド		2019.05.18
上海工部局交響楽団－徳川頼貞による招聘計画の顛末		2019.06.29
『えりざのまどゐ』と徳川頼貞の小説「麗日記」		2019.07.07
橘井清一郎－南葵文庫が育てたもうひとりのライブラリアン		2019.08.17
南葵音楽図書館と遠藤宏		2019.09.14
瀧廉太郎と東くめ－遠藤宏の研究資料から		2019.10.11

日本オルガン界の泰斗木岡英三郎－南葵主任オルガニスト時代		2019.11.03
唱歌の和歌山－教材としての唱歌、愛唱歌としての唱歌		2019.12.06
佐藤春夫の詩と音楽		2020.1.18
和歌山をうたう－万葉のうた、民謡、唱歌、近代詩、歌曲		2020.02.15
和歌山の音楽家たち	(*)	2020.03.14
<b>担当講師 佐々木勉</b>		
録音技術誕生以前の家庭での音楽の楽しみ方		2017.12.16
18世紀ロンドン市民の音楽の楽しみ方		2018.02.03
17～18世紀のイギリス紳士のたしなみ		2018.02.24
愛鳥家の楽しみ		2018.03.31
エリザベス1世女王とマドリガル集《オリアンナの勝利》		2018.04.28
イギリス・ルネサンス期の音楽理論書を読む		2018.06.02
ヘンデルの失脚とJ.Chr. ペープシュ《乞食オペラ》		2018.06.30
1695年11月21日、イギリスは泣いた		2018.07.28
レッスンという名の優雅な傑作：パーセルのチェンバロ作品		2018.08.04
イギリス人は踊り好き？		2018.08.25
H. パーセル《音楽はほんのひと時であっても》		2018.09.29
楽譜出版業者の販売戦略1 ヘンデル：オルガン協奏曲		2018.10.20
同2 「予約出版」というビジネスモデル		2018.11.24
誤植？は語る ヘンデル《「リナルド」からの歌曲集》		2018.12.15
楽譜出版業者の販売戦略3 常識に縛られるな		2019.01.19
同4 顧客のニーズを探れ		2019.02.16
同5 売れ筋の楽譜は再販せよ		2019.03.16
南葵音楽文庫で学ぶ西洋音楽史(1)「グレゴリオ聖歌」		2019.04.12
同(2)中世ヨーロッパの音楽「ドレミの起源」		2019.05.10
同(3) 同「楽譜の誕生と発展」		2019.06.15
同(4) 同「多声音楽の出現と展開」		2019.07.12
同(5)ルネサンス期の音楽「ミサ曲の発展」		2019.08.04
同(6) 同「宗教改革と教会音楽の展開」		2019.09.06
同(7)バロック期の音楽「通奏低音」		2019.10.06
同(8) 同「モノディ様式の新しい歌」		2019.11.03
同(9) 同「モノディ様式による声楽ジャンル」		2019.12.01
同(10) 同「器楽の発展」その1		2020.01.10
同(11) 同「器楽の発展」その2 協奏曲		2020.02.07
同(12) 同「器楽の発展」その3 組曲	(*)	2020.03.06
<b>担当講師 近藤秀樹</b>		
仏蘭西で聴く日本の歌		2018.01.20
機関車の音楽		2018.02.10
ゾウさんの子守唄～こどもたちのための音楽(1)		2018.03.17
こどもたちのための音楽(2)ラヴェル《子どもと魔法》		2018.04.14
海の音楽～スナール室内楽コレクションより(3)		2018.05.12
プロコフィエフ、再び～スケルツォと行進曲		2018.06.15
ラヴェルと日本とフォックストロット		2018.07.14
ダルクローズとケクラン～スナール室内楽シリーズより		2018.08.11
頼貞が会った音楽家たち(1)ゴドフスキー		2018.09.08
ピアノの詩人、モンポウ～スナール室内楽シリーズから		2018.10.07
『ルバイヤート』を歌う～スナール室内楽シリーズから		2018.11.04

※各レクチャーのレジュメ(配布資料)を和歌山県立図書館「南葵音楽文庫」のウェブサイトでご覧いただけます。



<https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/nanki/event/minilec/>

ロシア音楽と和歌～プロコフィエフとその周辺		2018.12.02
頼貞が会った音楽家たち(2)ヴァンサン・ダンディ		2019.01.06
松山芳野里《5つの日本的な歌》ふたたび～パリでの初演		2019.02.03
オネゲルと堀口大學～スナール室内楽シリーズより～		2019.03.03
1921年5月・巴里の頼貞		2019.04.20
オネゲルとスナール～ピアノ曲を中心に		2019.06.02
音楽の温故知新～スナール室内楽シリーズから		2019.06.22
プロコフィエフ、《展覧会の絵》を弾く！？		2019.07.20
オネゲルとスナール(3)《ユディト》		2019.09.01
第一次大戦の影～レイ・ヴィエルヌの音楽を聴く		2019.09.21
旅する音楽家～アルベニス《スペイン風セレナーデ》		2019.10.26
《人生への別れ》～カゼッラと南葵音楽文庫		2019.11.16
少年作曲家J・フランセ～スナール室内楽シリーズから		2019.12.14
頼貞が会った音楽家たち～シャルル・マリー・ヴィドール		2020.01.25
フランスとスペインのはざまに《カスティージャ民謡集》		2020.02.22
音楽になったスポーツ？オネゲルの《ラグビー》を聴く～	(*)	2020.03.21
<b>担当講師 篠田大基</b>		
ドイツ歌曲になった和歌 ワインガルトナー《日本の歌》		2019.03.23
南葵楽堂開館記念委嘱作品 E.W. ネイラー 序曲《徳川頼貞》		2019.04.07
E. ジンバリスト《日本の調べによる即興曲》		2019.07.27
<b>担当講師 泉 健</b>		
世紀転換期のベルリン		2018.01.27
学習院時代の友人たち		2018.03.24
頼貞・ケンブリッジ大学入学試験		2018.07.21
露西亜救済慈善音楽会 ドビュッシー「放蕩息子」		2018.11.09
ベルリンの頼貞		2019.05.25

※スペースの関係で副題等一部を省略した場合があります。  
(\*)感染症予防のため開催とりやめとなりました。

「音楽の泉」とそのコレクションをめぐって

主催 和歌山県立図書館

南葵音楽文庫  
ミニ・レクチャー  
毎週開催

申込不要 聴講無料

どなたでもご参加いただけます

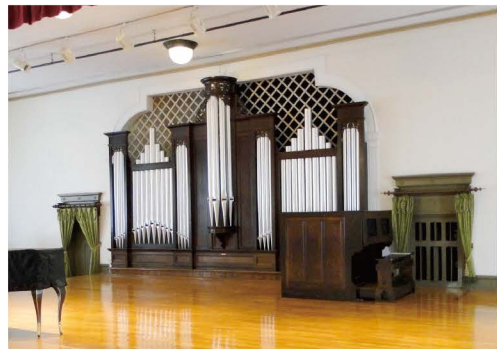
南葵音楽文庫開館100年記念！

「南葵音楽文庫開館」前に置かれた所定の「入室申込書」に記入、受付票と資料を受け取り入室してください。受付はレクチャー開始の15分前からです。

▼開演室内部の様子 ▼徳川頼貞 1892-1954 ▼アクセス(駐車場無料)

## 南葵楽堂のオルガン小史

- ▷英国留学中の1914年(頼貞22歳)、音楽堂設置の構想を父頼倫に伝える
- ▷オルガン設置のため、師ネイラーを通じて見積もりをとり、帰国前に注文
- ▷1918年、第一次大戦のためにのびのびになっていたオルガン製作開始
- ▷1920年春、横浜港到着、教育用品として無税で通関し南葵楽堂へ運搬
- ▷アポット・アンド・スミス社に技師派遣要請し、ブリッチャードが急遽来日
- ▷通訳等のためエドワード・ガントレット(英語教師、オルガニスト)が参加
- ▷西川風琴製造所の技師斎藤葵一を、今後のメンテナンスのため招聘
- ▷1920年7月からパイプオルガンの組み立て開始、10月?に工事終了
- ▷1920年11月、楽器披露をかねた演奏会で中田章、ガントレットが演奏
- ▷1923年9月、関東大震災で楽堂損壊。1928年、東京音楽学校へ寄贈



頼貞は関東大震災のあと1928年にオルガンを東京音楽学校に寄贈。現在も旧東京音楽学校楽堂にその姿をとどめ、演奏に供されている。

## 南葵の記憶①

# 双青閣

紀州徳川300年記念として、1920(大正9)年春、紀州東照宮の麓、御手洗池北側に建てられた。全国図書館協会の大会が和歌山で開催された際、会長であった徳川頼倫は、双青閣で和歌山にある陶器の名品を集めた展示会を開催した。

1937(昭和12)年11月民間所有となるが和歌山県に寄付。県は職員研修所として使用し、戦争中は県庁女子隊の訓練にも利用。1965年、研修所新築のための取り壊しに際し、田村岩友氏(海南市阪井)が購入、氏は京都から職人を呼び解体するとともに亀池公園に移築(1968年6月)し、1974年2月29日に海南市へ寄贈。

双青閣 海南市・亀池公園の中島



我庵の池とも見ばや  
青かきの山かげうつる  
和歌の浦波

徳川頼倫

双青寮 大正9年仲春日



徳川頼倫の和歌をあしらった器

## 南葵音楽文庫アカデミー【INFORMATION】

感染症の影響により開催日を変更し、セミナーは会場を変更・日程を追加しました。

	金曜カレッジ	土曜カレッジ	日曜カレッジ	セミナー
	14:00~16:00	13:30~15:30	10:00~12:00	13:30~15:30
夏	<del>6/12</del> →8/7	新宮 <del>6/13</del> →8/8	<del>6/14</del> →8/9	<del>6/14</del> 、7/12→8/9、2/7を追加

※セミナーの会場は、南葵音楽文庫閲覧室から講義研修室に変更(2021年3月7日は変更なし)。

また2月7日の追加開催は「ヴォーリス建築としての南葵楽堂~図面に見る建物の概要~(予定)」、講師は芹野与幸氏(下記)です。

### 令和2年度 これからの予定

- カレッジ秋 9月11日~13日「J.ホルマン:人、音楽とその魅力」「英国/アイルランドの風」
- カレッジ冬 12月4日~6日「文庫の行方:失われた40年、だが…」「人物論・徳川頼倫、《ミカド》《ゲイシャ》《喋々夫人》:西洋から見た日本像」
- カレッジ春 2021年3月5、7日「熟覧と細見 資料ががたるヒストリー」「紀州徳川ゆかりの建築遺構」

※内容、講師、申込等の詳細は、

南葵音楽文庫アカデミーのウェブサイトをご覧ください。

<https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/nanki/event/academy/>



## 講師紹介 (2021年2月7日)



芹野与幸  
せりのともゆき

(株)一粒社ヴォーリス建築事務所 顧問  
公益財団法人 近江兄弟社 嘱託研究員  
1951年、東京生まれ。1973年、桜美林大学文学部英語英米文学科卒。財団法人基督教視聴覚センター勤務。1981年、宗教法人 霊南坂教会 会堂改築事務局長・教会主事。1988年、(株)一粒社ヴォーリス建築事務所経営管理室長。2010年、同社 執行役員。2017年、定年退職。

## 近刊

紀州徳川400年記念出版物



## 南葵文華創刊号

令和2年7月31日発行

発行所  
和歌山県立図書館

〒641-0051 和歌山市西高松1-7-38

編集  
合同会社芸術資源研究所

〒640-8329 和歌山市田中町5-1-1 タバタビル704

編集協力  
有限会社ティアンドティ・デザインラボ

〒649-2326 和歌山県西牟婁郡白浜町椿36